

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまり Aユニット		
所在地	旭川市神楽四条1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成27年7月15日	評価結果市町村受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaisokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvovsyoCd=0172901613-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性を大切に、なおかつ能力に合わせた暮らしが送れるように支援しています。日常生活では、台所仕事や掃除・洗濯等をスタッフと共に行い役割を感じて頂いています。皆さんで楽しむ時間や思い思いに過ごす時間を作り、一人一人居心地良く生活出来るよう心掛けています。ドライブや外食・敬老会やお祭り等の季節行事を通じて四季を感じて頂けるよう働きかけたり、年に1度近隣中学の職場体験を受け入れ、中学生との交流で普段とは違う刺激が受けられる機会も設けています。健康面では、ラジオ体操や歩行運動を毎日行い健康維持に努め、当施設で配置している看護師が健康管理を行っております。医療機関とは、各入居者様それぞれ月1~2回の往診体制を設定、また緊急時には、24時間対応を確保しています。最近では、朝・夕にそれぞれ認知症に効果があるとされているアロマを噴霧し、職員共々気持ちよく毎日を過ごせるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<日常的な外出支援>
一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物、テラスでの外気浴など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、旭山動物園や科学館見物、幼稚園の運動会や花フェスタに出かけるなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。
<地域、家族との協力・連携>
毎年、ボランティアの協力や家族、地元の人々が参加する「ひだまり交流祭り」を開催して交流の機会を作ったり、地元中学校の体験学習への協力など地域、家族との協力・連携に取り組んでいる。また、利用者の一日の特徴的な様子を「一日一行日誌」にまとめ毎月、家族に情報提供している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「ささえあい」「思いあい」「語りあい」「広げあい」の5つのあいをいつでも目につくホールへ掲げ、日常的に意識し会議やミーティングの場で話し合う機会を設けている。	事業所独自の理念を見やすい場所に掲示して、全体会議やユニット会議で話し合い、その理念を共有し、実践につなげている。また、開設10年を過ぎて理念の見直しを検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひだまり祭りでは、地域や家族との交流を深めている。また、中学生の福祉ボランティア職場体験学習の受け入れ等も行っている。	毎年、ボランティアの協力や家族、地元の人々が参加する「ひだまり交流祭り」を開催して交流の機会を作ったり、地元中学校の体験学習への協力など地域、家族との協力・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や介護に関わる相談において、地域の方々が立ち寄り聞かれる際相談にのっている。また、運営推進会議の場等で、情報の提供も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を設定し、地域・市職員・家族の方々に参加して頂き、日常の様子や行事などの報告をしている。その際、地域住民や家族の意見を参考にし、サービス向上に努めている。	運営推進会議を年6回を目安に定期的に開催し、日常生活の様子や事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やひだまり祭りには、毎回市職員の方にも出席して頂いている。また、市主催の研修会には積極的に参加。実地指導ではその都度疑問や対処策を相談し適切な処理、情報交換を行っている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で定期的に研修会を行い、身体拘束について日常的に職員間で話し合い、身体拘束廃止を常に意識して介護にあたっている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会を開催して、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、全体会議やユニットごとのミーティング等で一人ひとりのケアを話し合い、かかわりを多く持つようにチームケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、定期的に勉強会を行っている。虐待の定義を毎回再確認し、日常的に言葉遣いなど、職員間で常に話し合い意識して介護にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会に参加したり、資料を見て理解に努めている。必要な方、情報を知りたいと思われた家族の方などに情報を提供するなどの支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、又は解約を行う時には、入居者やご家族に納得いくまで十分時間をかけ説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入り口に意見箱を設置したり、目立つ場所に市町村配布の相談窓口を知らせるポスターを掲示している。また、家族が来所した際には、日常の様子を伝えると共に、意見や要望を言いやすい関係を築くよう心がけ、プランにも反映させている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。また、来訪時には話し合う機会を設けて、そこの意見や要望等を運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議、各ユニット会議でミーティングを行い、意見交換や話し合いの場を設けている。また、日頃から毎日の申し送り等で話し合いの出来る関係を作るよう努めている。	全体会議やユニットごとの会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、有資格者など個々の努力に応じて評価している。職場環境や条件の整備にも、改善できる点は職員の意見・要求を聞きながら一緒に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修情報を提供し、積極的参加を勧めている。また、事業所内でも研修を行い、知識向上に日々努めている。資格取得に取り組む職員に対しては、必要な資料・情報を提供し、勤務体制も優遇的考慮を図り、応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者とは、研修やポウリング大会が行われる交流会などにも参加し、情報交換の機会を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接の時間を十分取って本人の思いを聞き、家族からも本人に関する情報を提供してもらい理解を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から情報を取り、希望・要望を聞き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から話し合っていた事をふまえ、本人・家族が今必要としている支援を双方納得のいく形で提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の趣味や思い・好きな事を尊重し、色々な事を一緒に楽しんでいる。その中で、共感したり教わる事もたくさんあり、互いに必要とされる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告や情報交換を行い、変化があった時は相談にのって頂いている。行事への参加をお誘いしたり、毎日どのように過ごしているかなどを、一行日誌にして毎月お知らせし、家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人、今までの生活歴の情報を収集し、昔からの友人との関係を継続出来るよう支援している。	散歩や買い物、護国神社詣りや花フェスタ見物等の地域の行事に参加するなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独立している様子が見受けられた時にはスタッフが間に入り、共通点を見つけ話題を振ったり、ゲームやレクリエーションのどを行い、良い関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受けている。長期入院後に退居された後も、家族から相談や近況報告を受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や状態を把握し、本人の希望をできる限り実現出来るよう個別ケアに力を入れている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をアセスメントを通じて職員間で共有し、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族が、これまでに関わったサービス事業所等から情報収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状況の変化を把握し、介護記録等に記入して、全員が現状把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を確認し、日々の申し送りやミーティングなどで、情報交換し評価・課題の検討を話し合っている。必要に応じて医療機関・専門機関に相談し、より良い生活が送れるようにケアプランを作成している。	本人・家族等からの意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、全体会議やユニットごとの会議で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が記入されている介護記録に日々の様子やケアの実践結果を記入し、情報の共有をすると共に、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、病院への受診や往診・買い物や外出・訪問美容等、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員・町内会長には運営推進会議に参加して頂き情報交換を行っています。消防訓練を通して消防機関とも連携を図り安心・安全な生活を送れるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望・同意の元、かかりつけ医を決定している。個々に応じて定期受診や定期往診を受け、緊急時も24時間対応を確保している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師勤務日には、日常の様子や健康上の疑問・問題点を報告し、処置やアドバイスをもらっている。また、職員では把握しきれない健康管理や医療機関への連絡対応をするなど速やかな対処が取れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時から職員が同行しているため、入院前から医療機関とは情報交換している。入院中も訪問し、経過の確認を行い状況把握に努め、退院後の受け入れ準備を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で大まかな終末期の希望を本人・家族から伺っている。重度化してきた場合、その都度家族・施設・医師と終末期のあり方を再確認し、当施設が出来ることを十分に説明し同意のもと、医療との連携を強化し、家族の理解と協力を得ながら職員一丸となって終末期に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有し、ターミナルケアを実践している。また、今後はさらに全ての職員が共通認識が持てるように意識の向上を図る計画が持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアルもあり、日頃から家族や医療機関とも緊急時の対応を話し合っている。勉強会等で緊急時を想定したシミュレーション対応の練習を行うなど常に意識している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回防災訓練を行っている。	消防署の協力を得ながら年2回の火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ「自分でやれる」誇りを大切にしながら、本人のプライバシーに対しても十分配慮した言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように内部研修会や日常業務を通じて職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あくまでも入居者本意の自己決定となるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日のながれに沿って、声かけや誘導を行っているが、体調や気分によって起床や食事時間を変更したり、入浴日も変えたりしている。また、レクリエーション等の希望を聞きやりたいことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、自分で選んだ衣服を着たり、季節に合った衣類をスタッフが選んだりしています。訪問理美容でオシャレをたのしんだり、爪切り・髭剃りの支援も定期的に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた形状や量で提供しています。誕生会ではリクエストにお答えし提供しています。後片付けでは、食器拭きやテーブル拭き等出来る事をお手伝い頂いています。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしています。また、回転すし等の外食の支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎回記録し、個々の摂取量を把握している。体調や状況に応じて水分の増減、食事の形状を変え提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行っており、個々の状態や能力に応じて道具を工夫する等して口腔ケアをおこなっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、チェック表でスタッフ間の認識を統一し、声かけ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、不穏状況と便秘の関連を意識しながら、その時に応じてヨーグルトを食べて頂いたり、下剤を調節している。また、日々の歩行運動や体操・水分調節など普段から予防にも努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴となっているが、その日の体調や希望に合わせて変更が可能になっている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に柔軟な入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況に合わせて、ゆっくり過ごせるよう心がけ、入居者様の睡眠状況を把握し、アロマを使用したり、状況に応じて休息出来るよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はスタッフ全員がいつでも見られるようにしており、薬の変更があった時には連絡ノートで全員に周知しその後は、様子観察し記録記入に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせ、食器拭き・掃除・洗濯物たたみ等を行って頂いている。入居者によってはパズルをしたり、歌番組のDVDを見たり個々の楽しみに応じている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見ながら散歩に出かけています。テラスも利用し、日光浴やお茶の時間を過ごしたりと、少々の時間でも外の空気に触れるよう支援しています。個々の希望に沿って、買い物などに出かける支援もしています。	散歩や買い物、テラスでの外気浴など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、旭山動物園や科学館見物、幼稚園の運動会や花フェスタに出かけるなど普段は行けないような場所でも、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせて事業所側でおこずかいを預かっている。買い物の機会を作り、自分で選んだり支払ったりする喜びを感じてもらえるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際電話をかけている。手紙は本人の能力に応じて支援できるようにしており、便せん等は数種類用意し、好きなものを選んで頂けるようにしています。手紙が届いた時も、能力に応じて職員が読み上げる支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、皆が自然と集まって寛いだり交流の場として気持ちの良い空間となっている。季節感のある飾り付けで目でも楽しんで頂け、テレビや音楽をかける際は、音量が大きすぎないように考慮して流している。湿度・温度・換気を調節し、居心地良く過ごせるよう環境整備を意識している。	共用空間には、行事参加の写真や習字等の作品が飾られたり、生活感や季節感を採り入れながら本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外のテーブルやソファを数カ所に配置し、自由にくつろげる場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅となるべく近い状態で過ごすことの必要性を家族に説明し、馴染みの家具や調度品・好きなものを持ち込み、好きなものを持ち込み少しでも居心地良く安心して過ごしてもらえるようにしている。	居室には、家族等の写真が飾られたり、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同空間のホールでは、車椅子利用者が自ら自由に行き来できるような家具の配置にしたり、トイレ・洗面台にはそれぞれ届く位置にペーパーを取り付けています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまり Bユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3-5		
自己評価作成日	平成27年7月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901613-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭川駅から車で5分の場所に当ホームがあります。周辺には堤防があり、閑静な環境中に当ホームがあります。平成16年に開設された施設です。

当グループホームでは、「寝たきりをつくらない」という基本理念を基に、利用者の皆様が快適に過ごすことができるよう日々心をこめてサービスを提供しています。訪問診療医が来られ、定期的に入居者様の健康管理をして頂いています。日常では看護師を置き、体調の変化等早期発見を心掛けております。利用者様やご家族様にとって、安心できる施設を目指し、一人一人個別の対応を大切に考え全力で支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「支えあい」「思いあい」「語りあい」「助け合い」5つの愛の理念を掲げ、温かな環境作りを日々目指しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園行事への参加、地域の中学校から体験実習の一貫として、毎年一日施設で活動を受け入れています。また年に一度のお祭りに地域の方に参加して頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合等に参加し、認知症ケアについての意見交換をしています。また人材育成の貢献として、実習生や地域の中学生の体験学習など受け入れも行っていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族、地域の方、市の職員、知見者等の参加を頂き、情報交換を行い、サービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員が参加していただき、情報交換を行いサービスの向上に活かしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送りで、拘束がないかを確認しています。玄関は施錠せず、階段は毎日の昇降運動に利用しオープンにしています。入居者の方が、自由に行動ができるように心がけています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全員参加のミーティングで、勉強会で虐待に対する意識を高め、全職員が理解し周知徹底されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学び、必要時適切な判断をし活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を用いて、説明しています。不安や疑問については、気軽に聞いていただけるよう、環境作りに気を配っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の申し送りや、毎日の申し送りの時にも、職員の意見を聞き、ケアの向上に努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人一人が発言しやすい環境作りを行い、月一回の全体会議、毎日の申し送りの他にも職員の意見等を聞き、ケアの向上に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、資格、個々の努力や柔軟な対応に対し評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修など、勤務を調整しただけ参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センターを通じ、グループホームの研修などを設定し、意見交換をしたりサービスの向上に繋げています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族とのコミュニケーションを図り、不安な事や要望等を確認し、信頼関係が築けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	第一印象を大切にし、家族との話し合いの場を作り、多くの情報を収集し、安心して生活ができるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い等で、ご本人・ご家族の求めている事を把握し、必要に応じて支援サービスの利用ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の性格や、生活歴を把握して、それに応じた支援に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人のお話を聞き、信頼関係が円満に進むようにサポートし、ご本人の状態変化を伝え、ご家族との関係良好にしていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人が、来設しやすいように心がけ、馴染みの場所へドライブに出かけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の自由を尊重し、過ごしていただいています。皆さん日中は、ホールで過ごすことが多く、人が近くにいるという意識や人の声を聴くことで安心感を持っていただける様な環境を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された後も、ご家族から相談を受けたり訪問するなどご家族との関係を大切にしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を聞き入れ、できるだけ希望に添えるようにしています。困難な場合は、納得していただけるように話し合いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活環境や、希望を大切に自己決定できるように配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過を記録に残して、スタッフ間での情報を共有し、日々の変化を見逃さないように努めます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に思いや意思を聞き、モニタリングを行い、月1回全職員でミーティングや日々の申し送りで話し合い、意見を出し合い介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録を記入し、毎日の申し送りや、その時々で気付いた事を話し合い、全職員が把握できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを聞き入れ、話し合いをし、希望に添った支援やサービスができるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に加入し、町内の行事計画への参加「おもいやり」の配布等で、地域住民の理解が得られるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に希望同意のもと、かかりつけ病院の往診を定期的を受けている。急な体調不良時などは、連絡し指示をもらい対応しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化が見受けられた時も、全職員が引き継ぎにて状況を把握し、看護師やかかりつけ医に連絡しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の支援に関する情報を医療機関に提供し、入院中も病院関係者との情報交換をし、常に連絡を取り合える関係づくりをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針を定め、ホームとしてできることを家族に十分に説明をして、話し合い、主治医や看護師と連携を取り、支援に繋がっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、担当医に指示をいただき対応できるようにしている。消防機関を招き救命やAEDの講習会も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し、年2回消防訓練をしてマニュアルを作成している。消防署の協力を得て、経路の確認、緊急時の対応の仕方など訓練しています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない様に個人に合わせた対応を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き入れ、理解し自己決定できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者の家族、地域の方、市の職員、知見者等の参加を頂き、情報交換を行い、サービスの向上に活かしています。ペースに合わせて毎日個々の希望に合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	室温、体調、入居者の好みを聞き、衣服の選択を支援しています。1ヶ月半から2ヶ月に1度訪問美容を利用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の誕生会又はお楽しみ会を開き、お誕生会の月の入居者の方には、好みのメニューにて対応しています。また可能な入居者の方には、準備や片づけなど手伝っていただいております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表により、食事量や水分量を把握し、十分な水分量を摂取出来るように工夫したり、個々の病歴も踏まえバランスのとれたメニューを取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の口腔状態や、能力に応じたケアをし、誤嚥性肺炎などの危険を防いでいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、トイレ誘導しています。排尿の出にくい方には腹圧をかけたり、立位困難な方は、2人介助にてトイレの排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、定期的に水分を摂取していただき、自然に排泄できるよう工夫していますが、場合によっては医師が処方した坐薬を使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の体調を確認しながら、週2回の入浴をしています。本人の意思を尊重し、個々に合わせて、曜日の変更やシャワー浴、清拭や足浴で対応しています。また男性職員での入浴に拒否がある入居者には、女性職員にて対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその日の生活リズムに合わせて、お部屋のベッドで休息したり、夜は安心して休んでもらえるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイル一覧があり、必要時確認をしています。処方が変更になったときは、連絡ノートに休し、全員に周知できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が、充実した生活を送っていただけるように一人一人にあった役割や楽しみごとの支援を行うために、個々の性格や生活歴を把握するように努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気が良く、暖かい日には近所を散歩したり、季節により、桜や紅葉を見に出かけたりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に合わせた対応をお願いしています。本人の希望で、お金を所持している入居者の方には、時々職員が確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なかなか難しくなっていますが、手紙を書くことや、頂くことで喜びや存在感、生きがいのひとつのなるようにサポートしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が、快適に過ごせる様に、室温・湿度の調整や、テーブルクロスを交換し気分転換をしお花を飾るなど配慮、工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が、ソファで雑談したり、カラオケ・DVD(歌、コント、アニマル、行事ごと)を観て楽しんでいます。会席で居眠りしている時は、ソファへ誘導し、気持ちよくゆったりとすごしていただける様に心がけています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、使い慣れた物を使用し、本人の好みに合わせて、小物を置いたり写真を飾る等、居心地よく過ごせるように工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全を心がけ、声掛けしながらできる事は極力自分でしていただける様に支援しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームひだまり作成日: 平成27年 10月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	33	入居者が重度化した場合、看取りの対応にかかる指針について、今後も職員全員が共通意識を維持できるように図る必要がある。	終末期において、看取りの場所の選択、医療的行為の看護など、本人や家族の意思が最大限尊重されるよう、重度化に対する職員の意識向上を図る。	ホームとしての終末期のあり方を含め、緊急時の対応及び急変時の対応、連絡ルート等の統一を再確認する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。